

佐々木小教育目標 ◎自分で深く考える子◎思いやりをもって助け合う子◎がんばってやりとげる子



佐々木小

第 2 号

令和5年5月17日

佐々木小学校

新発田市則清856

TEL 0254-27-2011

原因不明の「学校に行きたくない」

校長 齋藤 博敏

大型連休が終わり、20日（土）の運動会に向けた取組が本格的に行われています。集団でものごとを行う楽しさや達成感を十分に味わうことができます。

反面、「学校に行きたくない」と言う子どもが出てきがちなの時期でもあります。家の人から、なぜ行きたくないのかと問うと、もごもご言うばかりではっきりしません。すると、家からは、学校の何がいやなのか、具体的に聞き出そうとします。「友だちといやなことがあったのか？」「いじめられているのか？」「先生にいやなことを言われたのか？」はっきりしない返答に、学校に行きたくない原因をどうしても聞き出そうと、家からの追及はどんどん進みますが、しだいに子どもは泣くばかり…。

5月や9月には、このようなことが案外起こりやすいのです。

「学校に行きたくない」という子どもの言葉を聞くと、普通、大人は「学校で何かいやなことがあったのか」と考えます。

確かに、そのいやな原因を取り除いてあげることが大切なことなのですが、実は、学校に行きたくない原因が、子ども自身にも分からないことが結構多くあるのです。

新学期で緊張して頑張っていた4月が終わり、大型連休を迎えると、家で自由に伸び伸びできます。ところが、その休み（夏休みも同様）が終わると、また自由にならない日々が始まります。そんな閉塞感から「学校に行きたくない」になるようです。

だから、「学校に行きたくない」と言い出す子がいたら、まず、「そうかあ、行きたくないんだね」と家の人から、いったんその子の思いを受け止めたいと思います。「〇〇ちゃんのつらい気持ちは、よく分かるよ。大変だよ」と、分かってくれ、受け止めてくれることによって、子どもの気持ちはだいぶ楽になるものです。「分かってくれ、受け止めてくれた」ということが感じられると、安心感からか「学校に行きます」に変わる子もいるのです。

私は、職員に、常々次のような話をしています。

『以前は、学校に来ることが当たり前でした。今は学校に来ることだけで、立派なのです。頑張っているのです。子どもたちは様々な思いを抱えて登校しています。そんな子どもたちを、朝、笑顔で迎えてください。「頑張っているね」という意味を込めて。そして、帰りは、「今日も一日頑張ったね」という意味を込め、笑顔で送り出してください』と。

4月のPTA総会でもお話したように、

大人の笑顔は、子どもたちの元気の源です。

